

## 電気メッキ技術で多彩なニーズに対応

昭和33年から札幌でメッキ技術を活かした開発、製作を行う。特に、抗菌性・防かび性・防藻性・抗ウイルス性に優れた「抗菌メッキ」技術ではライセンスを取得しており、さまざまな場面で導入されている。



▲SAVAのカタログには、同社の技術がすでに掲載されている



▲シアンフリーメッキ加工と抗菌メッキ付与加工の技術開発は  
試行錯誤の繰り返しだった



▲ZINC ALLOY製ドアノブ  
(抗菌メッキシルバー色、抗菌メッキブラック色)

## 独自の抗菌メッキ技術と環境配慮の融合～亜鉛合金 (ZINC ALLOY) 機材上へのシアンフリーメッキ加工と抗菌メッキ付与加工の技術開発～

香港からの問い合わせメールから始まった技術開発。

札幌エレクトロプレイティング工業株式会社では、抗菌性・防かび性・防藻性・抗ウイルス性に優れた「抗菌メッキ」技術のライセンスを取得しており、特に、抗菌メッキ効果はそのまま、メッキができない場所や素材でも、塗料にすることで使用できる抗菌パウダーを、同社隣接の寿産業株式会社と連携して商品化している。

今回の取り組みは、その抗菌メッキ技術への香港からの問い合わせメールからはじまった。

ドアノブやハンドルなどを扱うポルトガルの企業 (JNF) のアジア拠点として動いていた香港のSAVA (建築資材を扱う企業) から、抗菌メッキについての問い合わせがあったのは2018年3月のこと。日本の抗菌技術を使って、中国向けのドアノブなどの商品にメッキをしたいという内容だった。しかも、その商品はステンレスが高価なため、リーズナブルにつくった亜鉛合金製だった。亜鉛合金製には一般のメッキ方

法が使えない。そこから同社の研究開発がはじまった。

実は亜鉛合金製でもシアンを使えば楽にメッキができるのだが、シアンは環境に悪影響を与えるためシアンフリーにすることをまず考えた。さらに、国内製の亜鉛合金であれば、成分内容がわかるのだが、海外製品なので合金の中の具体的な成分内容が全くわからない。磨くと不純物が出てくるので、薬品メーカーと協力しながら、何度も何度もトライ&エラーを繰り返し、ようやくメッキ技術は完成した。

北海道からメッキ屋の技術を発信。

全く面識のない海外の企業からの依頼ではじまった研究開発だが、これは同社が長年培ってきた抗菌メッキ技術が、国内だけではなく海外からも注目されるレベルのものだろう。代表の嶋村さんは「素材が変わった時に、どうやって表面処理をするか。それはメッキ屋の技術の見せどころ」と話してくれた。

とても理解を  
示してくれました。

札幌エレクトロプレイティング工業株式会社 代表取締役  
嶋村 清隆



今回はメッキ技術の研究開発に利用しました。補助金の使用目的の流用申請もわかってもらえましたが、とてもよく理解してもらえました。逆に、いろいろ質問もしてくれるので、とても使いやすい支援でした。また開発費の3分の2補助は大変な難しい制度です。